

日 時：平成29年9月17日(日) 13:00~17:30

会 場：日本学術会議講堂 (東京都港区六本木7丁目22番地34号)

主 催：日本学術会議地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会

後 援：日本地球惑星科学連合、地理学連携機構、防災学術連携体

土木学会(予定)、日本建築学会(予定)

参加費：無料(申し込みは不要)

開催趣旨

大規模な災害が頻発し、また資源小国でグローバルな社会や環境の変化の影響を受けやすい我が国では、多くの科学者が災害の軽減と持続的社会的形成に向けた研究に携わっています。しかし良い研究をすればそれが即社会に貢献し、評価されるというわけではありません。科学と社会の間の意思疎通に問題があることもあれば、社会が当面の社会経済問題に忙殺されていることもあります。本シンポジウムではそのような現実を踏まえつつ、災害軽減と持続的社会的形成に向かって進むには両者に同時的・統合的に取り組む必要があること、更に科学と社会とが協働・協創(協力して創る)を基本として取り組むべきであることを再確認し、その推進の方策を考えます。具体的には、地球環境問題、水問題、土壌問題、気象・気候災害、地震災害、火山災害、地質災害などに対する科学と社会との協働・協創の取り組みについて具体的事例を用いて紹介し、最後に総合討論の時間を設け、フロアとの間で相互理解と議論の深化を図ります。科学と社会の協働・協創の「場」と呼ぶに相応しいシンポジウムにしたいと考えています。

プログラム

総合司会 小口 高(日本学術会議連携会員、東京大学空間情報科学研究センター長・教授)

13:00-13:05 開会挨拶、趣旨説明

氷見山幸夫(日本学術会議第三部会員、北海道教育大学名誉教授)

13:05-13:25 地球環境問題はどうか解決できるか—Future Earthの取り組みについて

安成哲三(日本学術会議連携会員、総合地球環境学研究所所長)

13:25-13:45 水と食料の安全保障と持続可能な開発目標(SDGs)

沖 大幹(日本学術会議連携会員、東京大学生産技術研究所教授)

13:45-14:05 土壌問題—健康な土壌が社会の持続性を支える

宮崎 毅(日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授)

14:05-14:25 気象・気候災害—地球温暖化のもとでの災害リスク

鬼頭昭雄(日本学術会議連携会員、一般財団法人気象業務支援センター地球環境・気候研究推進室長)

14:25-14:45 リスク認知のための官民協働による戦略的地域地盤情報整備

佃 栄吉(日本学術会議連携会員、国立研究開発法人産業技術総合研究所特別顧問)

14:45-15:00 休憩

15:00-15:20 地震災害—社会に伝わらなかった熊本地震の科学的知見

平田 直(日本学術会議連携会員、東京大学地震研究所教授)

15:20-15:40 臨床火山防災学の試み

山岡耕春(日本学術会議連携会員、名古屋大学環境学研究科地震火山研究センター教授)

15:20-15:40 自然災害と土地条件とのかかわりを社会と共に考え普及するために

海津正倫(日本学術会議連携会員、奈良大学文学部教授)

16:00-16:20 防災問題における国際共同研究・人材育成と社会実装

寶 馨(日本学術会議連携会員、京都大学大学院総合生存学館長)

16:20-16:40 土木・建築—研究者・技術者が造る都市の耐震性と市民の期待のギャップ

和田 章(日本学術会議連携会員、東京工業大学名誉教授)

16:40-17:25 ディスカッション(休憩時間に質問票を回収し、それを元に質疑応答します)

司会 春山成子(日本学術会議連携会員、三重大学大学院生物資源学研究科教授)

17:25-17:30 閉会挨拶

高橋桂子(日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人海洋研究開発機構地球情報基盤センター長)

災害軽減と持続的社会的形成に向けた
科学と社会の協働・協創